

9/12 3.7

# 世界からどう見られるべきだ

福井

戦争する國ついでに反対福井県連絡会は10日、陸・海・空自衛

隊会員の福井市中パレード(東行賃貸会主催)が実施された会場で抗議行動を取り組みました。

パレードは、農田政権が、専守防衛から先制攻撃も含む敵基地攻撃能力保有を踏み出した中で行われました。主催あらわの八木誠一郎県防衛協会会長は、「自衛隊に感謝するといひながら日本を守るとこれが何物かを感じねねた」パレ

ードを見届けてほしい」と発言。杉本選出知事も「わが国の安全保障環境は大変厳しく」とあわりました。

同パレードは、陸自鶴江駐屯地(同県鶴江市)の50周年記念を祝い2010年に実施され

て以来続いている。県都を中心部の大通りで露車やバスの運行も止め、事前飛行訓練には「年々ひとりくなっているように思ふ」との苦情が出ています。

パレードでは、F-15J戦闘機2機が会場上空を飛ぶ一方、徒步部隊が銃を携行して行進し、

イルの発射機とローダー装置を載せた車両が続きました。アナウンスでは、自衛隊パイロットになる方法も紹介されました。

抗議行動では、約30人が横断幕を広げてスタンディング。参加者が「中国や北朝鮮が軍事パレードをやめるのを見ると嫌な気持ちになる。同様に、福井市中パレードも世界からどう見られるか考えるべきだ」との声がかかるました。日本共産党県委員会から、かねもと翠枝衆院1区候補佐藤正雄副委員長、山田文葉福井市議、山川知一郎あ



自衛隊パレードと抗議する人たち=10日、福井市